

小松島港湾・空港整備事務所 平成29年度事業概要

四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所では、平成29年度の主要な事業として、①港湾整備事業、②海岸保全施設整備事業、③海洋環境整備事業の三つの主要な事業に取り組んでいきます。

港湾整備事業

■ 沖洲(外)地区 複合一貫輸送ターミナル整備事業(徳島港区)

徳島小松島港沖洲(外)地区では、四国で唯一の東京・北九州を結ぶフェリー航路を保有していることを強みとして、これまで課題となっていた、長距離トラックの運転手不足、フェリーの積載容量に対して貨物量が超過しており、荷物の積み残しが発生しているといった課題に対処すべく、平成21年度より、「複合一貫輸送ターミナル整備事業」に着手しました。

平成27年3月には、水深8.5mの(耐震)岸壁が完成し、平成28年1月から9月にかけて、旧船全4隻が順次大型化(総トン数11,500t→13,000t)され、11月末からは完全に新造フェリーに移行されました。

平成29年度は、港内の静穏度確保のため、防波堤150m(計画)の整備を実施していきます。また、現在整備が進められている四国横断自動車道も、平成31年度には徳島JCT-徳島東IC、翌32年度には徳島東IC-津田ICまで供用される予定となっており、陸海が一貫となって物流・人流の機能強化を図り、競争力の向上と地域の活性化を図っていきます。



■ 金磯地区 予防保全事業(小松島港区)

徳島小松島港の主要な港湾施設は、昭和40年代に整備されてきましたが、近年老朽化の影響が顕著に見受けられるようになりました。

当該事業の実施場所となる、金磯地区の岸壁(-11m)は、主に原木、砂・碎石等を取り扱っており、またお盆の阿波踊りシーズンには、例年大型クルーズ船が着岸していた施設になります。しかしながら、近年老朽化が進んでおり、既に一部のエリアにおいては、利用規制を設けながら使用していた施設です。

平成28年度より現地工事に着手したところでありますが、昨年度は3ブロックのリニューアルを終え、平成29年度は2ブロックのリニューアルを行う予定です。

また、岸壁前面の泊地において、貨物船・クルーズ船が安全に利用できるように、浚渫を行っていく予定であります。

今後急速に増加してくるインフラ施設を効率的・戦略的に維持管理し、トータルコストの縮減を図りつつ、利用者の安心・安全を確保していきます。

